

## 皇居参観記念おみやげ

### 皇居の和菓子職人の開発した「菊最中」



「菊最中」は、宮内庁大膳職を辞された後、「菊園」を創業した先代宮島清光さんが考案されました。いわば皇居の和菓子職人が開発したお土産です。「菊園」創業当時は、宮様などよりの御注文の御品を宮内庁より承ることもあったようです。現在は、その創業者の息子である2代目宮島淳郎社長が職人氣質で伝統の技を受け継ぎ、すべて手造りで丁寧に仕上げ、その味を守っておられます。皇居前庭である皇居外苑にふさわしい菊に因んだお土産物として、「皇居のかほり」（らくがん）とともに、根強い人気があります。

### 江戸城築城の創祖太田道灌ゆかりのお酒「道灌」



江戸城築城の祖は、太田道灌とされていますが、その末裔にあたる太田實則（18代）・精一郎（19代）（太田酒造・代表取締役）さんの下で作られたお酒「道灌」を取り揃えています。そのいずれもが、皇居外苑参観記念にふさわしいネーミングと装丁となっております。太田酒造によれば、「太田家は江戸の初期、道灌公の末流太田若狭守正長が越前福井藩から海道の要衝近江の草津に移り、代々関守をつとめてまいりましたが、その後この宿場で酒造りを始め、遠祖の名に因んだ清酒「道灌」は東海道や中山道を往来する人々に、これぞ天下の銘酒と賞味されてまいりました。」とあります。

### 楠正成公ゆかりの「瓦せんべい」



瓦せんべいは、唐の時代に中国に渡った弘法大師空海が、皇帝に招かれた席で食したせんべいに感銘を受け、帰国後伝えたのが始まりと言われています。「瓦」というネーミングの由来は、神戸・湊川神社で、氏子たちが瓦を寄進した際の記念に売り出されたとする説があります。皇室への忠信を尽くした楠正成公を祀るため、明治5年に創建された湊川神社の屋根瓦をモチーフとした神戸発祥の銘菓「瓦せんべい」。

楠公売店では、楠正成公と菊文様の2種類の絵柄をあしらったオリジナルの「江戸瓦せんべい」として、人気お土産品のひとつとなっています

### 皇居周辺の花の蜂蜜「皇薫蜜」



「皇薫蜜」は、皇居のほとりて採蜜された「ゆりの木」等のかぐわしい蜂蜜入りで、くせのない、香り高い上品な味わいの自然食品です。製造元の藤原養蜂場は、明治の初めから蜜蜂の飼育に専念してきた老舗です。皇居周辺の“移動養蜂”による皇居周辺の良質な蜂蜜の採集は、2002年からとのことですが、「皇薫蜜」は、創業一世紀の記念として発売された同社オリジナル製品です。「そめいよしの」、「ゆりの木」、「金柑」（又は「マロニエ」《栃の木》）の四種類の「皇薫蜜」は、いずれをとっても、大都会の中にあつて緑豊かな国民公園「皇居外苑」のおみやげにふさわしい逸品と言えます。